

## ふるさと尺の内公園の絶滅危惧種オニバスについて

三浦憲人（ホシザキ野生生物研究所）

ふるさと尺の内公園はホシザキグリーン財団の活動目的の1つである、人と自然の潤いのある調和と共生をめざし、地域の自然環境の保全につながる活動を行う場所として整備した丘陵地に隣接する多自然型公園である。園内には、池や小川、小湿地、草むらのほか、多種の樹木が植栽されており、野鳥や昆虫などの野生動植物の生育環境も提供されている。

オニバス *Euryale ferox* Salisb. はやや富栄養化した泥深い池沼や用水路に生育する1年生の浮葉植物で、絶滅危惧植物として環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧 II 類、島根県においては絶滅危惧 I 類に指定されている。島根県ではオニバスの保護と絶滅のリスク分散のため、自生地の外に移植が行われ、ふるさと尺の内公園にも2005年に移植が試みられた。

オニバスは園内の約120 m<sup>2</sup>の池に移植され、順調に株数が増加した。そして2011年以降は約650株の芽生えを確認することができるようになった。

オニバスの系統保存を継続するためには、基本的な生態を理解する必要がある。栽培・管理を行う中で、1. 種子の発芽について、2. 葉の生長について、3. アメリカザリガニ（以下ザリガニ）の食害について、観察・調査の結果を報告する。

1. 2009年から秋に採取している種子は、翌年春に発芽するものは少なく、翌々年の春から発芽率が高くなることがわかった。

2. 国内では葉の大きさが最大直径2m70cmの記録がある。これまで大きくても1mをこえるものはほとんど見られなかったが、2013年は1m24cmの葉を確認することができた。

3. 水槽を用いてザリガニとオニバスを一緒に入れて観察したところ、ザリガニは楕円形の浮遊葉の葉柄を切断・接食していた。切断・接触された葉柄の太さは1mm前後が多く、最も太いものは2.2mmであった。この結果をふまえ、2.2mmよりも太い葉柄をもつオニバスを、囲いの外に移植したところ、順調に生長した。

